

令和7年度 学校経営方針

京都市立元町小学校

学校教育目標

自ら考え、夢や目標に向かって積極的に行動する子の育成

～進んでチャレンジし、対話を通して学びを深める元町っ子～

【育成を目指す資質・能力】「対話力」「問題解決力」

【目指す子ども像】

- ◎「も」：もっと学びたいと思える子ども（確かな学力）
- ◎「と」：ともだちを大切にできる子ども（豊かな心）
- ◎「ま」：まいにち笑顔で過ごせる子ども（健やかな体）
- ◎「ち」：チャレンジしながら考えて話せる子ども（育成を目指す資質・能力）

【目指す学校像】

- ◎明日も笑顔で来なくなる安心感のある学校（笑顔の登校・満足の下校）
- ◎学校生活すべてにおいて、子ども・教職員ともに学び合う学校
- ◎家庭・地域と連携・協働することで一体感のある学校

【目指す教職員像】

- ◎子どもに温かく寄り添い、一人一人の思いや考えを大切にする教職員
- ◎子どもとともに歩み、自らも学び発信しようとする教職員
- ◎コンプライアンスを意識し、保護者・地域から信頼される教職員

【目指す子ども像について（「も」「と」「ま」「ち」を意識しながら学校生活が送れるように）】

- ◎「も」…もっと学びたいと思える子ども（確かな学力）
 - ・授業での約束や学び方をきちんと身につけ、カリキュラムマネジメントや教材の精選、指導計画を意識しながら各教科・領域の見方・考え方や必要とされる基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させる。
 - ・DX ビジョンに基づきながら iPad 端末等の積極的な活用や研究主題を意識した授業改善を通して、日々の授業と家庭学習との連動を意識させるとともに、子どもたちの自学自習の習慣化を図る。
- ◎「と」…ともだちを大切にできる子ども（豊かな心）
 - ・互いのよさを認め合い、子どもたちが協力・協働する活動を学習や特別活動等に意識的に取り入れることで、子どもの自己肯定感や自己有用感を高め、子ども同士のつながりを支援していく。
 - ・自分から進んであいさつや「さん」づけなどを徹底するとともに、子ども同士が互いに尊重し合いながら望ましい人間関係を築けるように個別最適な指導や支援に複数の教職員で関わりながら努めていく。
- ◎「ま」…まいにち笑顔で過ごせる子ども（健やかな体）
 - ・命の大切さや健康的に過ごすことの意義を認識できるように、食育や性教育、情報モラル教育などを計画的に実施し、自分も友達も笑顔で過ごせるようにする。
 - ・ねらいを意識した避難訓練の実施や安全ノートを活用した学習などを通して、子どもが規則正しい生活習慣や危険予知などを意識し、子ども自身が安全に学校生活を送れるようにする。
- ◎「ち」…チャレンジしながら考えて話せる子ども（身につけたい資質・能力）
 - ・単元や授業の導入で子どもが興味・関心や疑問を抱けるような問題意識を大切にし、安心して学習に取り組めるよう学年や発達段階に応じて、ICTやツール等を活用しながら対話を重視した授業を行う。
 - ・「めあて」から「まとめ」「ふりかえり」までの学習展開だけを意識するのではなく、発問の工夫やゆさぶり、問い合わせし合い活動など子どもの思考を中心とした「主体的・対話的で深い学び」を実践する。

【目指す学校像について】

- ◎「明日も笑顔で来なくなるような安心感のある学校」
 - ・本市の教育理念である「子ども一人一人を徹底的に大切にする」を教職員全員が意識できるように、学校行事や児童会活動などの取組にも積極的に参加し、喜びや感動、気づきなどを子どもと共有する。
 - ・「子どもファースト」の理念のもと、学校生活すべてにおいて子どもたちが安心して教育活動ができるように、子どもの声に積極的に耳を傾けながらさまざまな面からチャレンジすることを支援する。
- ◎「学校生活すべてにおいて、子ども・教職員がともに学び合う学校」
 - ・普段の学習活動だけでなく、学校行事や縦割り活動など特別活動でも学ぶ意義があることを実感できるように指導しながらともに寄り添うことで、子どもの見取りや学習意欲の喚起につなげる。
 - ・生き方探究パスポートの活用や子どものキャリアデザインにつながるような活動を教育活動に積極的に取り入れ、子どもが話したり語り合ったりすることで、育てたい資質・能力の1つ「対話力」を高める。
- ◎「家庭・地域と連携・協働することで一体感のある学校」
 - ・各家庭と教職員とが子どものことを中心に連絡を密に行い、家庭と学校とがしっかりと連携を取ることで子どもたち一人一人を大切にしているという姿勢を示していく。
 - ・全校遠足や全校道德など子どもが中心となる教育活動を積極的に取り入れ、活躍する子どもの様子を学校HPや学校だより、すぐーる等で伝えていくことで、保護者や地域の方々とのつながりを深めるとともに、元町小学校の子どもたちを地域全体で組織的に育てていけるようにする。

【目指す教職員像について】

- ◎「子どもに温かく寄り添い、一人一人の思いや考えを大切にする教職員」
 - ・生徒指導のポイント「見逃しのない観察」「手遅れのない対応」「心の通った指導」を組織的にかつ迅速に実践できるように、「子どもファースト」を意識しながら何か子どもの様子の変化等があれば生徒指導主任を軸としてその都度教職員間で集まるなど情報を共有し、教職員間での連携を確実にする。
 - ・子どもの表情や様子、成長の変化について日頃から敏感になり、話しやすい雰囲気づくりを心がけて子どもの思いや考えをじっくりと聞くとともに、教職員から子どもに寄り添う働きかけを常に意識する。
- ◎「子どもとともに歩み、自らも学び発信しようとする教職員」
 - ・子どもの学びや学習経験、体験について教職員自身がきちんと把握することで、子どものキャリア形成サイクルを実践し、学級通信や学校HP、連絡ツール等で気づきや変化について共有・発信していく。
 - ・「対話力」「問題解決力」の意義や必要性について考え、校内での教育活動だけでなく、これらの力は社会に出てからも大切な力であることを認識しながら、自ら積極的に関わる姿勢で子どもと接する。
- ◎「コンプライアンスを意識し、保護者・地域から信頼される教職員」
 - ・定期的にコンプライアンス研修や教職員ミーティングをするなどして、教職員自身のコンプライアンスを常に意識し、保護者・地域等の信頼が失われないように教育公務員としての倫理観を向上させていく。
 - ・自らの資質や指導力の向上を目指すとともに、「チーム元町」として学校経営を担う一員であることを全教職員が自覚し、互いに連携・連絡の共有を意識しながら組織としての教育活動を進めていく。

【今年度の重点指導事項】

- ◎「対話力」「問題解決力」の育成と「主体的・対話的で深い学び」の充実
 - ・子どもの問題意識や学習のめあてをきちんと認識するとともに、日々の学習にむけて自ら主体的に最後までやり遂げられるような授業づくりや単元構成を、カリキュラムマネジメントの視点で考えていく。
 - ・子どもが主体的に学べるような単元計画・めあてを設定し、DXビジョンの観点からICTやツール等を単元や授業の流れ、教科に応じて活用するなどして、学習の見通しがもてるような授業改善を意識する。
 - ・対話サイクルを中心に対話的な活動を活発にするとともに、学年の実態に応じた形で系統性を意識して取り組み、話し合い活動は、ペアやグループ、全体など学習状況の場や思考に応じた形で充実させる。
- ◎自分づくりを目指すキャリアデザインと確かな評価
 - ・個の見取りを核としたキャリア形成サイクルを実践し、子どもがどんな自分になりたいのかというキャリアの視点を教職員も大切にすることで、子ども・保護者と教職員との信頼関係をより深めていく。
 - ・がんばってよかったという達成感につなげるために、子ども自身の思いや考えて主体的に進めていく活動を尊重し、その様子や状況を学校と保護者・地域が連携しながらしっかりと見取り支援していく。
 - ・生き方探究パスポートやキャリアデザインを積極的に活用し、子どもが自分らしく活躍するために必要な力を、日々の学校生活を通して何事にも積極的にチャレンジしながら身につけられるようにする。
- ◎今日も来てよかった、明日もまた行きたいと思える「笑顔の登校・満足の下校」の実現
 - ・本市の教育理念である「子ども一人一人を徹底的に大切にする」を教職員全員が意識し、子どもの見取りや支援を互いに共有しながら確実に実践し、子どもたちの楽しい学校生活を教職員で支えていく。
 - ・「対話力」「問題解決力」を高めるための具体的な取組を進め、学習面や対人関係などのさまざまな問題に対しても、子どもが学校への安心感と期待感、安全性を自覚できるように丁寧に対応する。
 - ・学校運営協議会など地域や保護者、PTAからも本校の学校教育活動について幅広く意見をいただき、互いに協働していきながら「チーム元町」としての学校づくりを進めていく。